

2007 年度

科目名 日本語と英語	対象学科・学年 教育教福 2 回生	担当者 溝口 健司
授業テーマ 日本語と英語の諸相を比較することによって、それぞれの言語と文化の特質を探る。		
授業の概要と目標 人間という同じ動物種の産物である以上、日本語と英語は言語の本質部分をすべて共有している。しかしまた、日本語も英語も、それぞれが固有の地域で固有の文化・歴史を基盤として成立しているために、非本質部分で固有の性格をもつことも事実である。両言語の相違は、言語類型、語彙、語順、文構造、音韻体系、文字体系、情報構造、時間表現、場所表現、翻訳可能性、表現性、発想、論理性などの個々の領域において、またいくつかの領域をクロスした形で現れる。日本語と英語がなにを共有し、どの部分がどのように異なり、そしてそれはなぜなのかを考える。		
評価方法 質疑応答における発言の質・量、および不定期試験によって評価する。		
テキスト 『英語の論理・日本語の論理』	著者 安藤貞雄	出版社 大修館書店
参考書 『大修館英語学事典』 『日本語百科大事典』	著者 松浪有ほか（編） 金田一春彦ほか（編）	出版社 大修館書店 大修館書店
授業スケジュール・内容 1. オリエンテーション (1) 2. オリエンテーション (2) 3. 日本語の特質 (1) 4. 日本語の特質 (2) 5. 語彙の比較 (1) 6. 語彙の比較 (2) 7. 語順の比較 8. 文構造の比較 (1) 9. 文構造の比較 (2) 10. 音韻体系の比較 (1) 11. 音韻体系の比較 (2) 12. 文字体系の比較 (1) 13. 文字体系の比較 (2) 14. 質疑応答・補足 15. 不定期試験 16. 主語と主題 (1) 17. 主語と主題 (2) 18. テンスとアスペクト (1) 19. テンスとアスペクト (2) 20. ダイクシスの比較 (1) 21. ダイクシスの比較 (2) 22. 社会言語学と翻訳(1) 23. 社会言語学と翻訳(2) 24. 表現構造の比較 (1) 25. 表現構造の比較 (2) 26. 表現構造の比較 (3) 27. 個の論理と集団の論理 (1) 28. 個の論理と集団の論理 (2) 29. 質疑応答・補足 30. 不定期試験 【授業における役割分担】 応答担当者 1. 質疑応答の前々週までに、関心のある部分を教科書から申告する。 2. フロアから提出された質問などにできるだけ一般性の高い解答を用意する。 フロア 1. 質問を紙面で前週までに提出する。 2. 質疑応答で積極的に発言する。		